

平成18年 8月 7日

「第47回機器分析講習会」受講報告書

物理・化学系班 鈴木 猛

1. はじめに

テクノセンターからの依頼により、機器分析の基礎および基本操作の習得のために受講した。

2. 主催

日本分析化学会関東支部

3. 内容

講習日 : 2006年7月27日(木)、28日(金)  
講習場所 : 島津カスタマーサポートセンター(秦野市)  
講習内容 : 『GC/MS, LC/MSの基礎と実際』  
- 残留農薬の分析を中心として -

第1日 講義

1. 質量分析の基礎と新展開 (星薬科大学 齊藤貢一)
2. LC、LC/MSの基礎 (埼玉県衛生研究所 堀江正一)
3. 農薬等のポジティブリスト制と試験法の概略 (国立医薬品食品衛生研究所 米谷民雄)
4. 農薬の作物残留分析法と実際 (残留農薬研究所 小田中芳次)
5. 分析の信頼性 (日本食品分析センター 中村宗知)

第2日 実習

1. LC/MSによる農薬の分析実習 (星薬科大学 齊藤貢一)
2. 反応クロマトグラフィー  
ポストカラム蛍光誘導体化HPLCによるN-メチルカルバメート系農薬の分析  
(化学物質評価研究機構 田嶋晴彦)
3. GC/MSによる農薬の分析  
(化学物質評価研究機構 和田丈晴)

4. 所感

講習会は、日本化学会と会場となった島津製作所の協力により、実に充実した興味深いものであった。

講義は、残留農薬の分析を中心として構成されており、農薬に関する制度の変更とそれに伴う試験法の実際について詳しい解説がなされた。農薬のポジティブリスト制に対する産業界の関心が高いことが、参加者のほとんどが会社関係であったことから推察された。

実習では、島津製作所の最新の質量分析器を使用して分析を行った。時間の関係で前処理等の分析準備で重要な部分はいえなかったが、機器の操作、結果の解析など丁寧な指導を受けることが出来た。

講習会をとおして質量分析の基礎的な知識を得られたことと、産業界の実際の一端に触れられたことは、今後の業務にとって非常に有意義であった。